

神学校週間によせて

2016年6月26日 [日] ~ 7月3日 [日]

神学校週間・・・1978年日本バプテスト連盟全国壮年会連合 第1回総会にて1979年度より6月第4週の1週間を「神学校週間」とすることが決議されました。

「」の位置！

日本バプテスト連盟常務理事 吉高 叶

バプテストが産声をあげたのもっとも初期の時代には、いわゆる「聖職者・教職者」としての牧師はいませんでした。バプテストたちは、既成の教会から飛び出した人々であり、「反社会的な人々」だと烙印を押された集団でしたから、当時の「エリート公務員」であった聖職者たちが、この群れに参加することなどあり得ないことでした。

けれどもバプテストたちは集まって礼拝し、み言葉を語り合い、聞き合い、主を賛美し続けました。主が「この世の知恵や力を無力なものとなさるために、無学なものを選び無学なものを選ばれる」（1コリ1・27）ことを信じて。

やがて彼らは、説教や牧会に従事する専従者を、自分たちの仲間の中から擁立し、牧師として立てていきました。「上からこちらに向かってくる聖職者」ではなく、「こちらから共に神に向かっていく回労働者」としての牧師が誕生していったのです。

今も、牧師その他の教職者が「この位置」に立つこの意味は大きいと思います。バプテストの「牧師（教役者）の立てられ方」の精神は、たとえ時代が変わっても、原理として大切に心に刻んでおくべき特性であり、バプテストの嗣業のひとつではないでしょうか。神学校に送り出すことが教会の出来事であるように。神学校で学ぶことが教会の出来事の中で生きていること。そして教会に立てられる事として赴任・着任があることを。私たちは、教会と献身と神学校の関係を、常にバプテスト的に結びつけていきたいのです。そして、神学校をおぼえ、神学生たちをおぼえ、祈り続ける者でありたいと思います。



神学生の証し

たしかなこと

西南学院大学院神学研究科2年

青木 紋子（南光台キリスト教会推薦）



「わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全なものとなっていないわけでもありません。何とかして捕らえよう努めているからです」（フィリピ3・12）。

全国諸教会の皆さまのお祈りとご支援とを感謝申し上げます。「神さまを伝える者になりたい」との思いが与えられ、まったくもって主の導きにより、西南学院大学神学部での学びの時が与えられ、早3年が過ぎ、いよいよ最終学年の時を迎えることになりました。この3年間の学びと研修の時を感謝いたします。

西南・神学部の特徴は、自己絶対化からの、身を切るような思いをしつつの脱却だと思えます。最初の年は、「母教会こそが普通の教会」「自分の信仰こそが真の信仰」と、今思えばそういったことが大前提にありました。先生方は「それが当たり前ではないんだよ」「どういった根拠でそう考えるの？」ということを指摘してくださいます。感動するのは、先生方のあたたかな祈りです。その姿にも教えられます。授業後は、心が熱くなることしばしばです。

3年間を終えて、失敗の連続からの率直な感想は、「なんだ、氷山の一角しか知らなかったのか！」ということ。神さまではないので、すべてのことを知りつくすことは不可能ですが、全領域にわたる神さまの働きは、人間にはとても思いも及ばません。ただ、主は今も働いておられます。そのことは確かです。



◎「教会形成特論」の授業風景

門をたたきなさい

九州バプテスト神学校牧師コース2年

山時 松江（防府バプテスト教会推薦）



2007年から教会が無牧師になったのを機に、「教会をまもりたい」「何とかしたい」と思い、神学校で学び始めました。初めは聴講生として、興味のある科目を、都合の良い時に学んでいました。が、教会から、本科に入学すること

とをすすめられ、2013年から新たな気持ちで学び始めました。教会からの支えと、人々の祈りにこたえたいと思いつつも、学びを深め、知識を豊かにすることができず、孤独になって何度も落ち込んだものです。しかし、通信で学んでいる私にとって夏季スクーリングは、学びの友と出合える楽しい時になります。それぞれが課題や不安を持ちながら、画面を見つめて学んでいることが分かり、励まされ、仲良くなります。先生方も親しく懇談をしながら、学ぶことの喜びを伝えて頂くと同時に、やはり神学生としての献身を問われます。このスクーリングの期間を通して、主にあつてひとつである安らぎと、主に応答してこられた先輩方の情熱が、さわやかな風のように包み込んで、学ぶ者が新しく変えられていくことを、体験してきました。

「求めなさい。そうすれば与えられる。・・・門をたたきなさい。そうすれば開かれる。」（マタイ7・7）このみ言葉によって、「私が求め」神学校の門をたたいたつもりでしたが、学びと交流を通して「神さまが」招いておられたことに気付かされた今、自分の思いと計画を超えて、用いてくださる神さまにお応えし、仕えていきたいと願っています。



◎2015年7月スクーリングにて

学びと分かち合い

東京バプテスト神学校教会教育専攻科学生

田中 宣之（筑波バプテスト教会推薦）



3年前にそれまでの職場を早期退職して東京バプテスト神学校の本科に入学しました。最初の1年間はすべての授業を通学して学びました。2年と3年はインターネットを通して学び、無事に本科を卒業することができました。

夜の学びの時間を確保するために2年前にパートの仕事につきました。神学校で学ぶために今の生活があることを職場でもよく話題にしました。同僚たちと共有してきたのはキリスト教の知識ではなく、むしろ現代社会の有様や歴史観をもうひとつの角度、多様な視点から見直すことを大切にすることにしました。自分で考えて物事からメッセージを捉えること、そこに新たな気づきや学びが多くあることを実感してまいりました。創業者から依頼があり4月から責任者を引き受けることになりました。これまで通り学びを続けながら、新たな実践をさらに積み上げていきたいと思えます。

私は以前から将来は何らかの専門性をもって教会のために働きたいとの夢をもっていました。教会で育てられた私は新しい時代にふさわしい教会の成長と成熟のために、神さまのご計画に用いられることを期待しています。

今私に求められていることは、働きながら学んでいるこの姿のまま主の招きに「応える」ところだろうと思えます。

大切なのは自分の力を頼りに学ぶのではなく神さまが用いて学ばせて下さると信頼することだと受けとめています。日頃より神学校のため、神学生のために祈り、支えて下さっている皆さまに心より感謝申し上げます。



◎インターネットによる「ハブル語初級A」のライブ授業

奨励《伝道者養成のための神学生奨学金献金と壮年会活動の推進》

大野裕昭(川崎バプテスト教会牧師)



私は2015年3月に西南学院大学神学部専攻科を卒業し、4月から招聘いただいた川崎バプテスト教会の牧師として働かせていただき、今年2年目を迎えています。

なつかしく思い出されるのは、2003年に40歳の時にバプテスマを受けた郡山コスモス通りキリスト教会の兄弟姉妹との心温まる交わりのときでした。今も楽しかった思い出が浮かんできます。

2007年に念願かかって故郷仙台に転勤で戻ることが出来たのですが、もうすでに21年の年月が過ぎ去っていた故郷で、すっかり私はよそのものになっていたのです。2008年に日本バプテスト仙台基督教会に転入会したのですが、教会のみなさんはキリストにある兄弟姉妹としてあたたかく迎えてくださいました。2009年の秋に献身の決意表明をし、2010年に西南学院大学神学部を受験(奨学金貸与)のために教会推薦をいただく臨時総会で、私にとって厳しい人物評をいただきました。教会にしてみれば

無理もない当たり前のことでした。仙台教会に転入会して間もない、素性のよく分からない男の献身の決意が、快い賛同を得られるはずなどなかったのです。まして、貸与される奨学金は高額であり、返済の最終責任は推薦教会が負うことにもなるからです。ですが、私にとってこの出来事は、東日本大震災と合わせ、主なる神からの召命を徹底的に吟味する時となりました。

献身の召命とは、神との個人的な出来事であります。しかしながら、教会の出来事として総会で決議し、推薦し、献身者を学びの場へと送り出し、祈り支えていきます。献身者もそのことを担い続けます。ですから、献身者を送り出す教会は、時に厳しい叱咤激励も必要であると思います。私自身、出身教会の兄弟姉妹への心からの感謝と悔い改めをもって、今も祈りへと導かれていくのです。

2016年度神学校週間にあたって 全国壮年会連合副会長(神学校献金推進担当) 野口正俊(志村バプテスト教会)

今年の「神学校週間」は6月26日(日)より7月3日(日)までとなっております。まずは、西南学院大学神学部、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校において伝道者を目指して学ぶ神学生のために祈りましょう。

私たちは、壮年会連合の事業のひとつである伝道者養成に関わる西南学院大学神学部神学生奨学金のための財源を確保するため、神学校献金(神学生奨学金献金)推進を全国の諸教会に呼びかけ、さらに毎年6月には「神学校週間」として、神学生を覚えて祈り、神学校献金のお勧めをしております。

さらに、2012年の連盟定期総会において、神学校献金(神学生奨学金献金)は西南学院大学神学部神学生だけでなく、東京バプテスト神学校(専攻科)と九州バプテスト神学校(牧師コース)で、伝道者となるために学ぶ神学生にも用いられるよう提案、承認されました。その議決を受け2013年度からは、「神学校献金(神学生奨学金献金)」は西南学院大学神学部神学生ばかりでなく、東京バプテスト神学校と九州バプテスト神学校で学ぶ神学生のためにも奨学金が支給されていることはご存知の通りだと思います。残念ながら、いまま無牧師の教会・伝道所が増える傾向にあります。必要とされる伝道者を満たすためには、西南学院大学神学部だけでも毎年25名の神学生を送り出したいと私たちは願っております。そのために神学校献金(神学生奨学金献金)の目標を毎年3,000万円としてきました。今年度も私たちは3,000万円へのチャレンジを続けます。神学校献金(神学生奨学金献金)推進は決して壮年たちだけの業ではありません。ひとりでも多くの献身者が送り出され、ひとりでも多くの伝道者が生み出されるようにとの思いは、私たちバプテストの願いでもあります。神学校週間を覚え、神学校献金(神学生奨学金献金)の目標額が満たされるよう、皆さま方のご協力とお祈りをお願いいたします。また年間を通じての献金もお願いします。具体的な呼びかけには、この「しおり」や壮年会連合の働きを紹介している「壮年会連合ニュース」、ホームページなどをご利用下さい。

神学校献金(神学生奨学金献金)の推移

年度	献金額
2008年度	2,490万円
2009年度	2,411万円
2010年度	2,325万円
2011年度	2,345万円
2012年度	2,228万円
2013年度	2,292万円
2014年度	2,284万円
2015年度	2,227万円

西南学院大学神学部及び東京・九州両バプテスト神学校で学ぶ神学生

神学生氏名(学年、よみ、推薦教会)

【西南学院大学神学部】26名 <2016年度奨学金貸与者数:22名>

博士後期	柏本隆宏(3年・かしもと たかひろ・福岡国際)、城 俊幸(3年・たちとしゆき・西戸崎)
博士前期	泉 選也(2年・いずみ えりや・野方)、広木 愛(2年・ひろき あい・田隈)、福久織江(2年・ふくひさ おりえ・函館)、青木紋子(2年・あおき あやこ・南光台)、三上 充(1年・みかみ まこと・金沢)、元川信治(1年・もとかわ しんじ・調布)
専攻科	酒井朋宏(さかいともひろ・名古屋)
学部神学コース	伊藤真嗣(4年・いとう まさつぐ・相模中央)、遠藤光子(4年・えんどう みつこ・別府国際)、紺田剛孝(4年・こんだ よしのり・田辺)、酒井 信(4年・さかい しん・緑の牧場)、永山辰原(4年・ながやま ときはら・福岡西部)、平野健治(4年・ひらの けんじ・大井)、川久保拓也(3年・かわくぼ たくや・ふじみ野)、カandel ジャナク(3年・かんでる じゃなく・福岡新生)、杉本拓哉(3年・すぎもと たくや・宇都宮)、小櫻 信(2年・こざくら まこと・大阪)、安里道直(1年・あさと みちなお・東風平)
選科	永松 博(3年・ながまつ ひろし・野方)、宮田祐亮(3年・みやた ゆうすけ・富山小泉町)、横濱峰二子(3年・よこはま ふじこ・札幌)、加山 献(2年・かやまささぐ・新潟主の港)、原田 賢(1年・はらだ けん・大宮)
特別研修生	大里 紡(おおさと つむぐ・鳥栖)

【東京バプテスト神学校】6名 <2016年度奨学金支給予定者数:3名(第1回連盟理事会にて決定)>

神学専攻科	郭 淑(かくしゆく・厚木国際)、澁谷和美(しぶたにかずみ・那覇新都心)、林 雄植(イム ウンシツ・渋谷)
教会教育専攻科	岡村ゆり(おかむら ゆり・奈良)、田中宜之(たなか のぶゆき・筑波)
教会音楽専攻科	澤田ルツ子(さわだ るつこ・千葉)、杉浦優子(すぎうら ゆうこ・藤沢)

【九州バプテスト神学校】6名 <2016年度奨学金支給予定者数:4名(第1回連盟理事会にて決定)>

牧師コース	桑原伸良(くわはら のぶよし・長崎)、香月太郎(かつき たろう・早良)、山時松江(さんとき まつえ・防府)、諸岡 寛(もろおか ひろし・平尾)、田口圭子(たぐち けいこ・長崎)、中村聖架(なかむら きよか・長崎)
-------	--

【神学校献金(神学生奨学金献金)】Q&A (壮年会連合ホームページより抜粋)

Q:各教会ではどのようにして神学校献金を献げたら良いのですか。

A:毎年6月に行われる神学校週間を用いて献金される教会・伝道所が多いと思いますが、年間を通して神学校献金を献げているところも増えていきます。また伝道者養成の業のひとつとして本活動の推進を連盟から全国壮年会連合に委ねられていますので、壮年が主体的に働かれることが多いと思いますが、是非教会の皆さまに働きかけていただき教会の業となることを期待しています。なお、具体的な働きは壮年会連合ニュースなどで紹介していますので、是非参考にしてください。【補足:個人として献金をして下さる方は、郵便局の赤色(送料は壮年会連合事務局が負担)の払込取扱票で振込みができます。口座番号は、00150-7-669605です。全国壮年会連合ニュースにも記載しています。なお、送金内容と連絡先を必ずご記入願います。】

Q:2013年度から神学校献金の名称が変わったのはなぜですか？

A:神学校献金は従来から、西南学院大学神学部で学ぶ神学生の授業料と生活

費の一部を支えるため、奨学金という形で用いられてきました。更に2012年の連盟

定期総会において、西南学院大学の神学部だけでなく、東京バプテスト神学校や九州バプテスト神学校で、牧師となるために学ぶ神学生にも用いられるよう「神学校献金使途拡充」として提案され議決されました。そこで「神学校献金」の使途を明確にするため、2013年度より「神学校献金(神学生奨学金献金)」という名称に変更いたしました。【補足:神学校献金という呼称から、神学校の運営のために用いられていると誤解されるのでは、との意見もあり、神学校献金推進委員会などで検討をしていますが、あくまで神学生の奨学金として用いていますので、ご理解とその旨の広報を教会内にてお願いします。】

Q:奨学金の内容は何ですか？

A:西南学院大学神学部神学生には、1種奨学金(授業料や施設費など校納金)と2種奨学金(生活費補助)を貸与(一部返還の義務があり)しています。尚、東京バプテスト神学校や九州バプテスト神学校の神学生には、両神学校から支給される奨学金の資金として供与していますが、全額、授業料に充てられます(中途退学や伝道者とならなかった場合は、返還義務が生ずる)。